

＜具体的な内容＞

No	意見	区分	市の考え方
1	<p>小学生によるいじめの問題も後をたちません。学校教職員らの隠蔽や虚偽の報告から教育委員会の怠慢などによりいじめ被害者生徒の発見が遅れ、その結果悲惨な自殺などをはじめ、心の病を負う生徒はいまだかつてなくなるばかりか、増加の一途をたどっており心配でたまりません。大人になっても子ども時代に受けた悲しみや理不尽ないじめにより、その子の人生に一生影響を与えている場合が多々あります。</p> <p>ざま魅力ある学校指針の素案は、いかにも希望的観測にもとづくひな形的文章そのものです。魅力的な文章ですが、心を打たれることはありません。それは今の現実起こっている実態がこの素案で解決できるか、というところからです。そもそも学校指針は、魅力であることは、「当たり前」のことです。指針は、成長期の一番大事な時期に、誰にも邪魔されず豊かな心を育成するものです。素案にも書いてあるとおり「豊かな心」は、自分の存在が認められ、様々な経験を積み重ねていくことにより育まれます。また、心は目には見えませんが、豊かな心の芽生えは、教職員や地域の人達との関わりによって日々の行動から見つけることができます。と記載されていますが、そのとおりと思います。</p> <p>それでは、繰り返しますが、この素案が出来上がったとき、今起きている学校現場でのいじめや教職員の隠蔽等から教育委員会の怠慢まですべて解決するのでしょうか。答えはノーです。折角素案を作成するので、生徒との教職員の役割や関わりや、認識をどうやったら変えられるのか等、いじめ防止をはじめ「豊かな心」をはぐくむためには、具体的に、誰がいつどのように行動し、それをどのように結び付けていくべきか、その結果をどのように生かすのかを素案そのものに反映させなければなりません。</p> <p>全体の素案構成の中に、上記の内容を追加し見直しすべきと考えます。イラストも抽象的なものばかりで、閲覧して心を打たれるものはありません。</p>	D	<p>教育行政に関する貴重な御意見として受け止めさせていただきます。</p>
2	<p>「魅力ある学校づくり」にむけ、提言します。</p> <p>★保護者に不安を抱かせ先生の疲弊を招いている「いじめ不登校の増加問題」。この問題を抜きにした「魅力ある学校づくり」では、明るい未来が描けません。「いじめ不登校の増加」は、社会課題をボランティア任せにしてきたことが問題を大きくしている要因と考えます。子育て教育行政の重点課題と位置づけ、期待のコミスクの必須テーマとして後押しする必要性を感じます。</p> <p>★コミスクむけ「地域ぐるみいじめ不登校の改善策」として、どこの学区でも可能な施策を2点推奨します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者、地域むけ「健全な子育てを楽しむ道しるべ」講座 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ不登校の要因とその回避策（備えと支え）紹介 ・子育て支援センター「出前講座4年」、相模女子大学子ども教育学科「子育て支援実践研究講座7年」の貴重な感想 2. 園小中連携「ボール投げによる『自信のタネ授け』教室 <ul style="list-style-type: none"> ・『なるほど投球塾』による「やればできる」成功体験 ・「年齢に応じた共に遊び学ぶ球技の自信を整える」 <p>★子どもを真ん中に、親に良し、学校に良し、結果地域に良し。“ありがとう”が行き交う「四方良し」で「いじめ不登校改善」。この手法は今、群馬埼玉等こども子育てに関する条例を有する教育委員会がその機運醸成策として注目、相談が寄せられている。</p>	C	<p>「地域とともにある学校」コミュニティ・スクールに関する今後の具体的な御提言として受け止めさせていただきます。</p>
3	<p>このようなパブリックコメントを募集していただき、ありがとうございます。</p> <p>魅力ある学校づくりのためには、学校の先生方だけの力ではなく、地域の方々の力が必要です。地域の協力なくして、魅力ある学校を作ることはできません。その地域の方々の中には、勿論保護者の方々も入ります。如何に教職員を助ける人を増やすかだと思っています。</p> <p>現在の子どもたちは、スマホの普及や新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、外で運動することが少なくなり、その影響が色々なところに現れています。例を挙げると、体力テストの結果からも分かる通り、体力の低下、肥満児童や生徒の増加、視力も低下、簡単に骨折する児童や生徒が多い、昼夜逆転や夜の寝つきが悪いなど、悪循環に入っています。</p> <p>また、自信がない児童や生徒が多いことも挙げられます。そのため、自己肯定感が低い児童や生徒が多く、自傷行為等をしてしまうという結果になっています。如何に『自信の種を育てるか』が、重要です！</p> <p>実際の体験が少ないことも、大きな問題です。この実体験を増やすためには、地域の大人の力が大切です。その意味で、コミスクやPTAが旗振り役となり、学校に協力する大人を増やすことです。私も、微力ながら座間市内の学校の米作り等に協力して、子どもたちが実体験できる機会を提供していきます。座間市内の子どもたちの『豊かな心の育成』のために、地域をあげて学校に協力することの必要性を訴えたいです！！</p>	B	<p>今後の取組に関する御提言として受け止めさせていただきます。</p>
4	<p>P37 「学校施設及び運営面での共通課題に対する対応策」 給食について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学校給食は自校式を継続する」を是非実施すべきと思います。アンケートでは、保護者・教職員・地域・未就学児保護者すべてにおいて、最も重要と思う給食が温かい給食であり、また地場産食材の使用や食育や食文化への関心を高めることを重要とする割合も高く、加えてアレルギー対応など小回りの利く対応の可能性が持てることから、これらの実現のために自校式調理が必要と考えます。 ・「校舎の施設更新があった時は給食室も一緒に更新する。」については、「一緒に更新」はもちろんであり、自校炊飯ができるよう、施設面積を広げ、回転釜の増設か炊飯機械の設置を行う必要があります。 ・「中学校給食は全員喫食を目指すこととする」については、2024～2025年に検討とありますが、アンケートにあるように保護者の希望も高く、早急の実施することを希望します。その際は、小学校と同様に、座間産農産物の使用を実施し、調味料等食材の質を高めることが必要と考えます。 <p>特別支援教育、国際教室、教育支援教室について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからないという子どもをそのままにしない、わかる学校にしていくため、教職員や支援者の充実を図ることを第1に取り組む必要があると考えます。 	B	<p>今後の取組に関する御提言として受け止めさせていただきます。</p>